

第2学年 授業改善推進プラン

	児童の実態から見える 指導方法の課題（重点項目）	具体的な授業改善策	○成果と▲課題
国 語	<ul style="list-style-type: none"> ○順序立てて論理的に話す力や、最後まで集中して話を聞く力の向上。 ○漢字の定着や文章力の向上等、書く技能の習得。 	<ul style="list-style-type: none"> ・言語活動の機会を意図的に増やし、聞き手にとって分かりやすい話し方と誠実な話の聞き方等を指導する。 ・台本やメモを活用し、順序立てて話すための指導を行う。 ・継続的に漢字の指導を行う。間違いは丁寧に直させる。 ・書く順序や段落を意識させる。「始め・中・終わり」についての構成メモ等を活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○感染症対策を行いながら、言語活動の機会を設けることができた。 ○メモを活用したり、互いに見合う活動を取り入れたりしたことで、順序や要点を意識して書いたり話したりすることができた。 ○バランスを意識した字を書ける児童が増えてきた。 ▲聞き手に伝わるような話し方、誠実な話の聞き方については指導を継続する必要がある。 ▲漢字の活用や、文章を推敲することについては、今後も継続的な指導が必要である。
算 数	<ul style="list-style-type: none"> ○めあての確認や自分の考えの説明、学習の振り返り等での、言語活動を通じた思考力の育成。 ○児童同士が意見を比較することによる、共通点や相違点に気付く力の育成。 ○経験を基にした量感の育成。 ○学習内容の理解と定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が自分の考えを文章や言葉でまとめる活動を取り入れる。また、本時で学んだことを振り返らせ、児童の言葉を生かしてまとめる。 ・少人数グループや、全体での発表で共有する活動を取り入れ、より多くの考えをもたせる。 ・日常生活に根ざした長さやかさ、時間を活用する場面を児童に見出させるなどして、課題との出会いを大切にする。 ・各クラスで連携を取りながら習熟度別学習を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の考えを友達と交流する活動を積極的に取り入れたことで、児童同士で課題に対する交流が活発になった。 ○自分の考えや学習の振り返りを文章でまとめる活動を通して、本時の学習内容について理解を深めることができた。 ○児童は板書や ICT 機器を使用し、他者の意見との比較を通して共通点や相違点に気付くことができた。 ○長さやかさを実際に測定する活動を意図的に行い、日常生活と関連付けて知識を深めることができた。 ▲習熟度別指導の中でも、習熟度に差が見られ、個に応じた指導の充実が必要であった。
生 活	<ul style="list-style-type: none"> ○地域の方との交流による、社会の一員としての自覚の涵養。 ○生き物や野菜への興味・関心を高め、愛情を育む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会の関わりに関する単元計画を学期ごとに立てる。校外での活動では、感染症対策に十分留意した上で、地域の場所や人との関わりが意識できるよう特に活動や体験の充実を図る。 ・活動での役割を一人一人がもち、集団の一員としての意識を育めるようにする。 ・動植物と直接触れあう場面を設定し、児童の興味、関心を高める。 ・自分がどのように動植物に関わっていくかを考えさせ、主体的に学習に取り組むよう指導を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○単元計画を工夫することで、児童は地域の場所や地域で働く人と、自分の生活とを関連付けて学ぶことができた。 ○児童一人一人が集団の中で自分の役割を果たすことができた。 ○児童は生き物や野菜について、調べたことや、観察して分かったこと等をまとめるなど、主体的に学習に取り組むことができた。 ▲校外学習をはじめ、体験的な活動を充実させていく必要がある。 ▲地域の方と接する機会が少なく、町探検のねらいに迫りきれなかった。

<p>体 育</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○多様な運動経験を通じた基礎感覚・基礎体力の向上。運動習慣の定着。 ○学習カードの効果的な活用による、思考面と技能面の相乗的な育成。 ○主体的・対話的で深い学びの実現。 	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な運動を経験して体の動かし方を知ることで、児童の基礎感覚や基礎体力を養う。また、休み時間の遊び等も活用し、運動習慣を身に付けさせる。 ・授業の目標に合わせて学習カードを活用する。選択式や記述式等、形式の工夫をして、児童が自身の成長に気付けるようなカードを作成する。 ・児童同士が、互いの良さを認め合える振り返りの場を設定し、学びを深められるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○多様な運動遊びを通して、体の動かし方を知り、基礎感覚や基礎体力を養うことができた。 ○学習カードを基に、教員は個別の指導を行った。また、児童は自分の成長を確認して、「できた」という実感をもって学習に取り組めた。 ▲児童の生活に合わせて運動習慣を身に付けさせることが課題である。 ▲感染症対策を徹底した上での主体的・対話的で深い学びの実現について、都や区の方針に基づいて引き続き検討していく必要がある
<p>道 徳</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○思いやりや協力、規則の遵守の心の育成。 ○劇化や動作化、役割演技等、多様な指導方法を活用した道徳的価値の自覚。 ○学習内容を日常生活に生かす道徳的実践力の育成。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間指導計画に基づき、児童の実態に合わせ、児童が共感や感動を覚えるような教材を選び、活用する。 ・問題解決的な学習や役割演技などの疑似体験的な表現活動を通して、道徳的価値の理解を深める。 ・授業で日常生活の場面を振り返ったり、日常生活で授業の内容を振り返ったりする等、道徳の授業と道徳教育の関連付けを更に強化する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○年間指導計画を基に、学年の実態に応じて教材や指導方法を工夫して指導した。 ○児童一人一人が自分の意見をもって学習に取り組んだ。また、友達と意見の共有や比較等を通して多様な意見に気付く機会とした。 ○学習内容を他の授業でも反復したり、日常生活で振り返ったりすることを通して、道徳的実践力の育成に努めた。 ▲感染症対策に伴い、劇化や動作化等多様な学習形態の経験が少なかった。